

News Release

2012-06
2013. 1. 30

グループ経営企画部（広報担当）
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目16番1号
Tel:06-6373-5092 Fax:06-6373-5670
<http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp/>

阪急阪神ホールディングスグループにおける コア事業推進体制の一部見直しについて

阪急阪神ホールディングスグループでは、現在、グループ経営機能を担う当社の下、阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神交通社ホールディングス、阪急阪神ホテルズの4社を中心に、6つのコア事業を展開していますが、2013年4月1日より、このコア事業推進体制を一部見直し、各コア事業の一層の成長とグループ全体の企業価値の向上を図っていくこととしましたので、お知らせします。

1. 目的

(1) 旅行事業及び国際輸送事業の更なる成長に向けて

当社グループの「旅行・国際輸送コア」においては、旅行事業及び国際輸送事業における阪急・阪神両グループのスムーズな統合を目指して、各事業会社の株式を保有する中間持株会社を2008年4月に設立しましたが、その後の5年間で、所期の目的を果たしたことから、中間持株会社体制を解消した上で、旅行事業、国際輸送事業それぞれを独立したコア事業と位置付け、事業競争力の強化及び利益の伸長を目指していきます。

(2) 流通事業における「駅ナカ・駅チカ物販事業」の更なる強化と沿線価値の一層の向上に向けて

当社グループの「流通コア」においては、沿線での「駅ナカ・駅チカ物販事業」の競争力強化と、そこで培ったノウハウを活用した沿線外での事業拡大を両輪に、持続的成長を目指してきました。しかしながら、首都圏・関西圏において展開してきた書店事業を既に外部化することとしており、また一方で、昨今の流通事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。そこで、今後は当社グループの強みを発揮できる沿線での「駅ナカ・駅チカ物販事業」を中心に、更なる競争力の強化を目指していきます。具体的には、都市交通事業と一体的に事業展開を進めることにより、これまでの成果（沿線消費のグループ内への囲い込み、多様な店舗展開による沿線の活性化・魅力度向上等）を引き続き拡大し、また開発が進む梅田エリアはもとより、沿線の駅ナカ・駅チカ施設の魅力度・競争力を一層向上させていきます。

(3) 阪急電鉄における広告事業の運営体制強化に向けて

当社グループの「エンタテインメント・コミュニケーションコア」のうち阪急電鉄・広告事業については、都市交通事業と一体的に事業展開を進めることにより、交通広告媒体等の効率的な活用・管理を更に推進していきます。

2. 体制見直しの概要

(1) 中核会社体制の変更

旅行・国際輸送事業における中間持株会社体制を解消し、阪急阪神交通社ホールディングスの傘下にあった阪急交通社と阪急阪神エクスプレスを新たに中核会社と位置付けます。

■阪急阪神ホールディングス傘下の中核会社

【現状】 阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神交通社ホールディングス、阪急阪神ホテルズ

【2013年4月以降】 阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズ

(2) コア事業体制の変更

- ① 「旅行・国際輸送コア」を、「旅行コア」と「国際輸送コア」の2つのコア事業とします。
- ② 「流通コア」を廃止し、流通事業を「都市交通コア」へ移管します。
- ③ 阪急電鉄・広告事業を「エンタテインメント・コミュニケーションコア」から「都市交通コア」へ移管します。

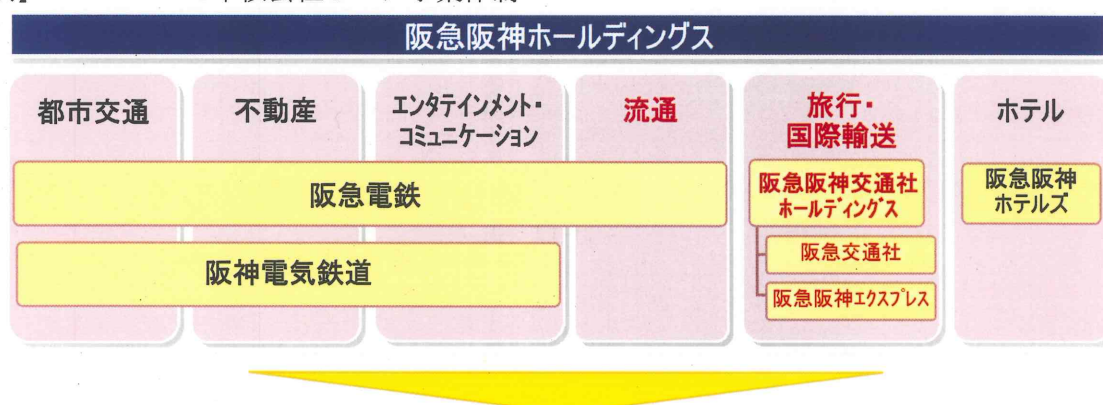
■グループの6コア事業

【現状】 都市交通、不動産、エンタテインメント・コミュニケーション、流通、旅行・国際輸送、ホテル

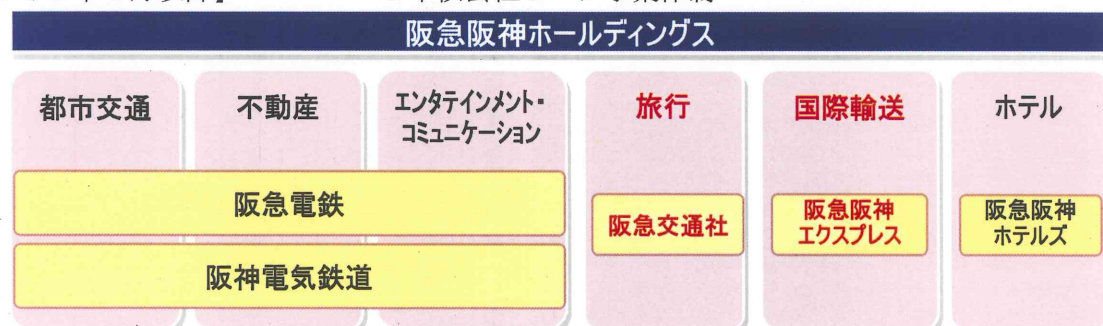
【2013年4月以降】 都市交通、不動産、エンタテインメント・コミュニケーション、旅行、国際輸送、ホテル

以上により、当社グループは5中核会社6コア事業体制となります。

【現状】 . . . 4中核会社6コア事業体制



【2013年4月以降】 . . . 5中核会社6コア事業体制



※流通事業は「都市交通コア」に移管します。

※阪急電鉄における広告事業は、「エンタテインメント・コミュニケーションコア」から「都市交通コア」に移管します。

3. その他

新体制に基づく2013年度以降の中期経営計画については、2013年5月に公表することを予定しています。

以 上

【ニュースリリース配布先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、国土交通記者会、大阪証券記者クラブ、兜倶楽部